

2022.3
No.33

ふり ひめ さと
振媛の郷

たかとり



たかとりの将来ビジョン実現に向けて!!



CONTENT

新春落語会・山本土郎写真展
たかとりのまちをデザインしよう
#まち活
コミセン講座 info
ふーちゃんねる

②
地域福

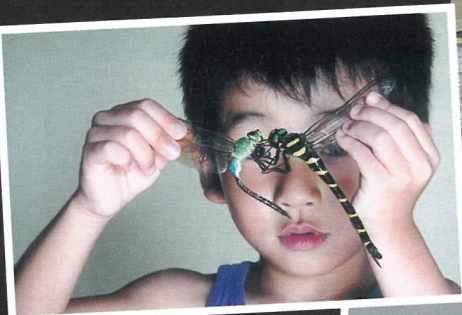
笑いは、
明日へ進む、
心の栄養。

一瞬の、
感動を、
収めました。



▲来場者に写真の説明をする山本土郎氏

山本土郎
写真展
身近な生き物展
4月28日まで開催



新春落語会

はやおき亭貞九郎



笑う顔には福来る

2/12 (土)

私達が今までに経験したことがない世の中の状況の中、まち協で何か楽しめることはないかと、立春も過ぎた二月十二日に、はやおき亭貞九郎さんをお迎えして『新春落語会』を開催しました。

昨年末から計画を立て、何度も協議を重ねた末の実施でしたが、当日には大勢の人が来場してくださり、盛況に開催することができました。

コロナ禍の中、私達にとって身近な話題の落語を話してくださった貞九郎さんや、落語で大いに笑い楽しもつと来場して下さった皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

(文：山田みどり)



第1回
ワークショップ
R3.11.21

「地元高校生と まちの資源探しをしました」

様々な意見が実現できると
暮らしやすいまちになるよね



まちづくりというと「よくわからない」「自分には関係ない」と思う人もいるかもしれませんが、自分の住み慣れたまちで、より楽しく、より暮らしやすくしていくためには、住民同士が「お互いさま」の精神で支え合いながら協力していくことが大切です。

令和三年十一月二十一日に開催した第1回のワークショップでは、「まちの地域資源探し」と「まちの未来の姿を実現するための課題の整理」をしました。

地域福祉グループ

高齢者がこの先、車で移動できなくなることが想定されます。買い物などに行けなくなることが心配です。週1回コミュニティセンターに移動販売車を誘致してはどうでしょう。私は車いす生活ですが、バリアフリーがまだまだ不足しているため、増やしてもらえると助かります。



発表者 柴田 航輝さん(山崎三ヶ)

健康づくりグループ

住民が健康だとまちに活力が生まれます。たかとりの郷が20年・30年経っても、今と変わらない住民同士のつながりを大切にしていきたいです。特に高齢者が活躍できる場があるといいので、ごんぼ汁や葉っぱずしといった、伝承料理を通じて三世代交流してはどうでしょう。



発表者 堂前 葵さん(大森)



たかとりのまちをデザインしよう

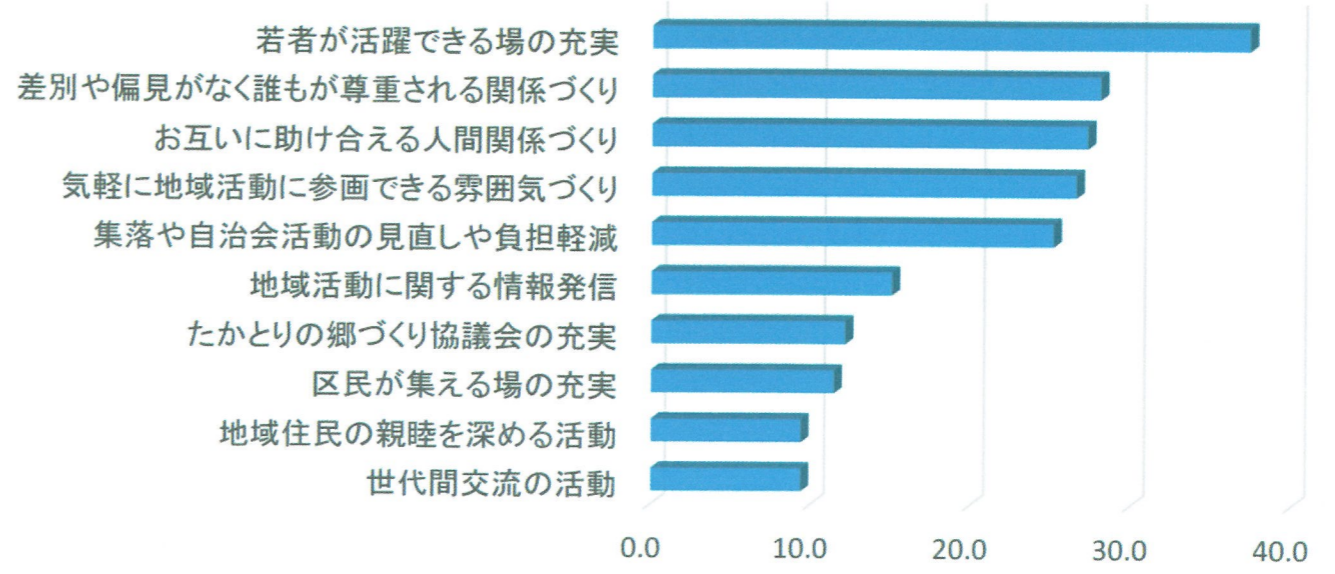
平成二十年二月に誕生した「たかとりの郷づくり協議会」は早いもので十三年が経ちました。発足当時から市からのまちづくり交付金を活用し、たかとりまつりや鷹取山登山など、賑わい活動に加え、もみじ保育園や明章小学校との連携、部会制による見守り活動や地域の歴史を知るといった様々な「まちづくり活動」が展開されてきました。また、令和元年には高橋東部コミュニティセンターがリニューアルされ、私たち地域住民にとって最も身近な施設として気軽に利用できる環境が整いました。その一方で、人口減少の影響もあって、近年では事業の定例化や、メンバーの高齢化、認知度の低さなどが目立ってきました。また、人々の価値観の多様化、複雑化している社会環境の変化も見られます。

こうした背景を受け、たかとりの郷づくり協議会では地域の魅力や特性を活かしたまちづくり、住民主体のまちづくり、より多くの住民が関わるまちづくりを進めるため、地域の団体で活動する方々、学校関係者、地元高校生など、「健康」「福祉」「交通・防犯」「防災」「環境」「教育・文化・歴史」の六グループに分かれ「まちの未来を考えるワークショップ」を三回に亘り開催し、延べ約一三〇名が参加しました。

たかとりの郷づくり協議会では、アンケートやワークショップを通じて、いろいろな人の声を拾いながら次の世代に繋いでいくための計画、「まちの将来ビジョン」を作成していくこととしています。

みなさんも一緒に活動に参加して持続可能なまちを創り上げていきましょう。

地域のきずなやコミュニティを守るために大切なこと(複数回答:%)



[R3.9月実施 たかとりの郷住民アンケート]

第2回
ワークショップ
R4.1.23

「ダイヤモンドランキングでまちづくりを考えました」

様々な分野との連携が必要だよ



これからのまちづくりは、私たち住民が地域の現状や課題を知り、意見を出し合い、そして、将来を考えると、住民で解決できることは住民で解決しながら、住みよいまちを創っていくことにあります。

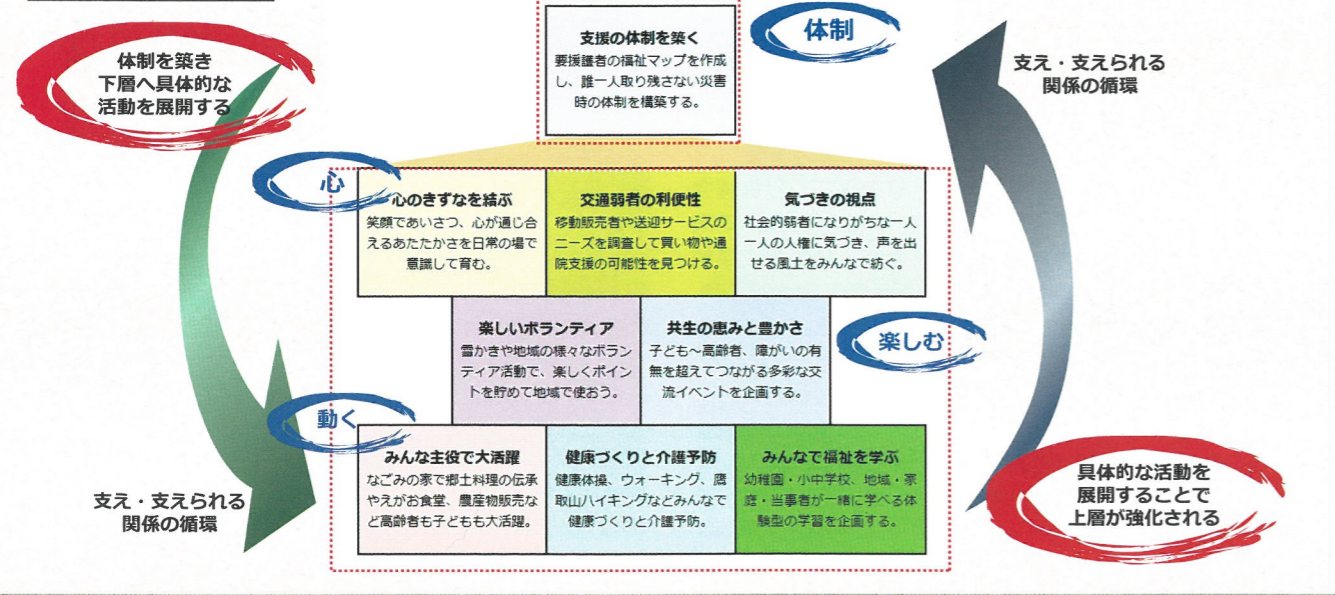
令和四年一月二十三日に開催した第2回のワークショップでは「まちの宝・未来の姿・実現のための課題」をもとに、たかとの郷にとって、特に重要な取り組みをカードにしてランキング方式で意見を出し合いました。

ランキングのポイント

どんな視点を重視するかは、グループの話し合いで!!

- たかとの郷にとって、特に重要なことは？
- 問題が大きく、**緊急度が高い**こと
 - 住民ニーズが沢山**あること
 - 長期的な視点**で時間をかける必要があること
 - 今までにない発想で**新しく着手**したいこと
 - 比較的**簡単にできそう**で実現しやすいこと
 - 既に活動**していて継続しやすいこと
 - 他の分野と一緒に**取り組めそうなこと
→1つの事業で**複数の成果**が得られること
 - その他

地域福祉グループ



防災グループ

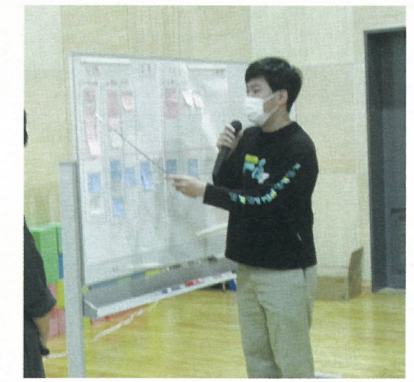
大雪時は集落単位での助け合いが必要となります。地域によっては集落の戸数や面積が違ったり若者の人数・割合が異なるため集落間を越えた協力が大切です。事前に支援する側の人数を把握し配置できるといいです。協力者へのお礼として地域クーポンを発行することで経済の循環が生み出せます。



発表者 小林 知生さん(野中山王)

交通安全・防犯グループ

公共交通機関の充実が求められます。特に学生や高齢者は駅が遠く切実な問題です。また、歩道に外灯が少なく、通学に不安があります。豪雪になると道路幅が分かりづらく、ポールが設置が望まれます。住民同士のつながりでセーフティネットの大切さを伝えていきたいです。



発表者 大嶋 勇羽真さん(四ツ柳)

教育・文化・歴史グループ

たかとの郷の自然を活かした里山教育はSDGs学習に繋がります。新しいものを作るのではなく、今あるものを有効活用して地域を活性化していくことが大切です。地元にはゴルフ場があるので、地域を知り関心と興味を喚起するため、ゴルフ競技を学校の体育で取り入れてはどうでしょう。



発表者 北川 侑樹さん(野中山王)

環境創造グループ

私は”のんびり”することが大好きなので、みんなが”のんびり”できる芝生広場があると楽しく過ごせていいと思います。たかとの郷は自然が豊かで、みんなで花を植える場所をデザインして、色とりどりの地域にしていきたいです。また、集落内の空地活用にも広がっていくと身近な幸せが作り出せます。

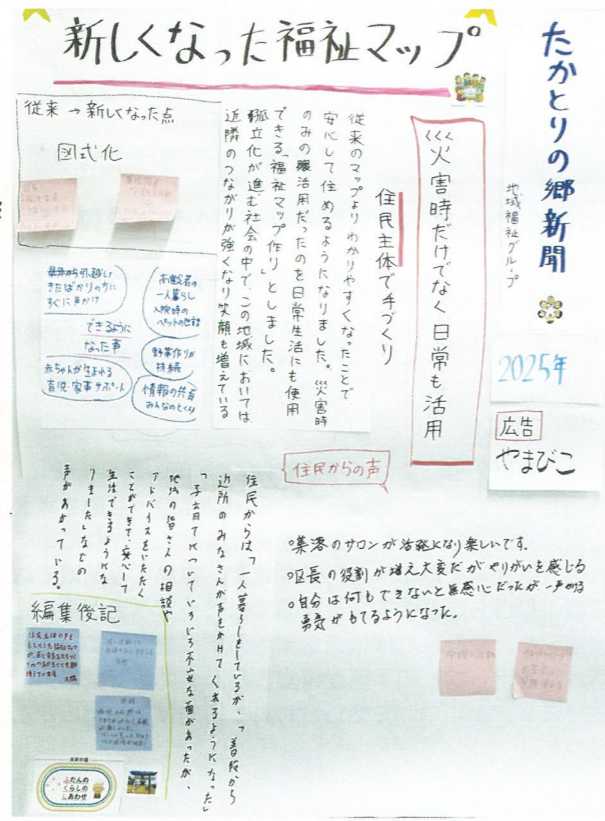


発表者 田川 晃暉さん(北四ツ柳)

5W1Hで紐解く 地域福祉グループ

- いつ (When)** 2025年6月30日
- どこで (Where)** 高棕東部コミュニティセンター
- だれが (Who)** たかとの郷づくり協議会、区長会、民生委員、ボランティア団体
- 何を (What)** 福祉マップを刷新する
- なぜ (Why)** 災害時のみならず日常的に活用していくため
- どのように(How)**

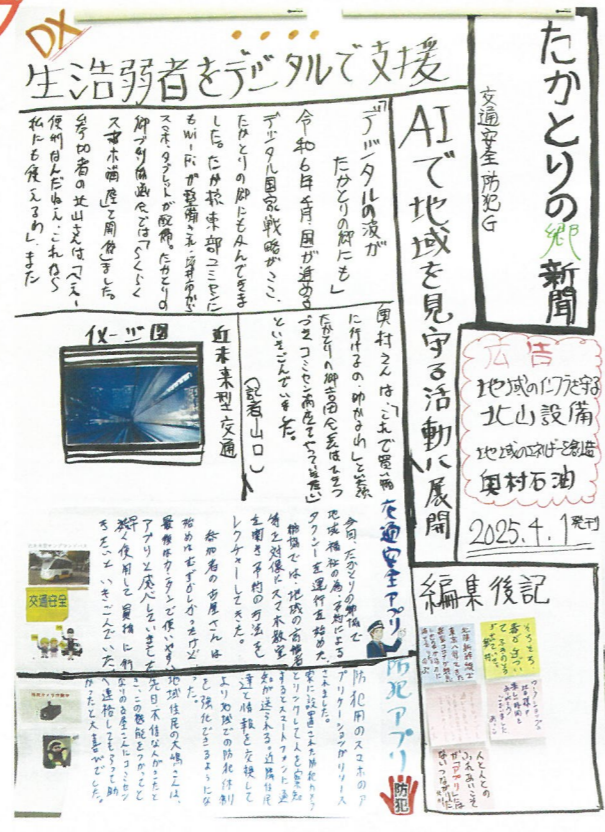
孤立化が進む社会の中で、たかとの郷づくり協議会では、住民が主体となって手づくりの福祉マップを作成した。作成にあたっては、地域の実情を調査するため区長へ協力を要請、連携して作業にあたった。新たに完成したマップの特徴は区長、民生委員、福祉委員の役割を図式化していること。ふだんの暮らしにおいて助け合いの精神が根づく内容となっている。マップ作りに参加したOさんは「これからは近隣の繋がりが強くなるだろう」と得意げな様子。また、マップの配布を受けた高齢者Nさんは「普段から声掛けしてくれるようになり安心だわ」と喜ばれていた。



5W1Hで紐解く 交通安全・防犯グループ

- いつ (When)** 2025年4月1日
- どこで (Where)** 高棕東部コミュニティセンター
- だれが (Who)** たかとの郷の高齢者
- 何を (What)** 交通安全・防犯アプリを使い生活弱者を支援する
- なぜ (Why)** デジタル化が進む中でAIを駆使して地域を見守るため
- どのように(How)**

国が進めるデジタル国家戦略がたかとの郷に好影響をもたらしている。コミセンにはWi-fiとタブレットが整備された。これを契機にたかとの郷づくり協議会では高齢者を対象とした「らくらくスマホ講座」を開講、高齢者にアプリのダウンロードから使い方までやさしく教えた。講師役の同協議会のKさんは「最初はみんな不慣れな様子でしたが、慣れてからはみんなおしゃべりしながら楽しそう」と手ごたえを感じていた。また参加者のFさんは「家の防犯カメラとアプリがリンクできるなんて凄い、外出しても安心だ」とAI時代に期待を膨らませていた。



第3回 ワークショップ R4.2.20

「未来新聞 “たかとの郷新聞” をつくりました」

3年後はどんな出来事があるんだろうなあ



令和四年二月二十日に開催した第3回のワークショップでは三年後の姿を描いた壁新聞づくりに取り組みました。新聞づくりのワークを通して、自分が生まれ育ったたかとの郷の魅力を再発見しながら、三年後に実現された出来事を想定して記事にしました。

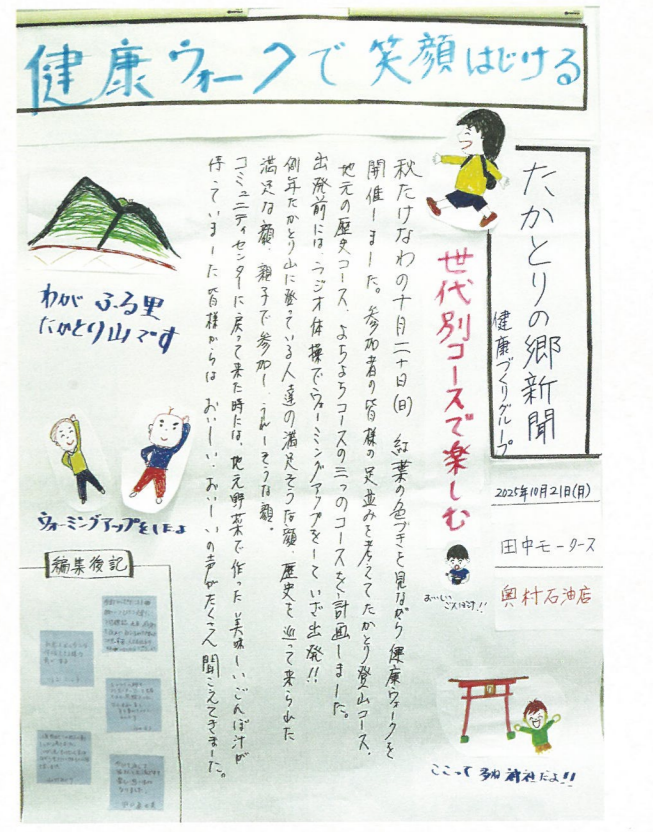
制作過程では、「登場人物は誰にするかの」「住民何人参加したんやろか?」「参加者からのインタビューも載せんとあかんざ!!」など、みなさん新聞記者になりきり、思い思いのニュースを描いていました。

だいすきなたかとの郷を創造する
たかとの郷に住む誇りを創造する
わたしたち自身で創造する

5W1Hで紐解く 健康づくりグループ

- いつ (When)** 2025年10月21日
- どこで (Where)** たかとり山
- だれが (Who)** 地域の子どもから高齢者
- 何を (What)** たかとり山登山をする
- なぜ (Why)** 世代別で楽しみながら健康を保持するため
- どのように(How)**

紅葉が色づき始めた季節、たかとの郷づくり協議会では健康ウォークを開催した。幅広い年齢が世代別で楽しめるよう今回は初めて「登山コース」「地元歴史探訪コース」「よちよちコース」の3つを用意、出発前にラジオ体操をしてウォーミングアップをした。今回初めて地元歴史探訪コースに参加したKさんはとても満足の笑顔、またよちよちコースに参加したYさん親子は手をつないで歩いて楽しそう。下山後はコミセンで地元野菜を使った「ごんぼ汁」で栄養補給、みんな「おいしい、おいしい」と笑顔が溢れていた。



5W1Hで紐解く 教育・文化・歴史グループ

- いつ (When)** 2025年5月26日
- どこで (Where)** (第一会場)高椋東部コミュニティセンター
(第二会場)明章小学校グラウンド
- だれが (Who)** たかとの郷の住民約500名
- 何を (What)** たかとの郷まつりをする
- なぜ (Why)** 地域の良さを発見するとともに地域の活性化を図るため

どのように(How)

たかとの郷の将来を考える有志約40名が声を上げ「ふるさとまつり実行委員」が結成された。ふる里のお宝発見「人と自然」をテーマに里山資源を活用した田植え体験、里山生き物調査、伝承料理などの多様なメニューを考案し、たかとの郷まつりを開催した。第一会場となるコミセンでは、子ども達の里山学習の成果がパネル展示され、ステージでは体験発表が行われた。第二会場となる明章小グラウンドでは小中学生の他、各年代の地元住民が参加した地区運動会が復刻開催され、場内は盛り上がり一体感が生まれていた。



3回の「まちの将来を考えるワークショップ」を終えて参加者の皆さんに感想を聞きました

【楽しかったこと】

- ・普段あまり話をしたことのない人でも共通のテーマを持つことで盛り上がり、とにかく楽しく過ごせた。
- ・みんなで話し合いながら文章を考えたりアイデアを出し合いながら楽しかった。
- ・高校生の男子の子と友達みたいに気軽に会話できてすごく楽しかった。
- ・本当に実現したらいいなあと思しながら文章を考えるのが楽しかった

【心に残ったこと】

- ・若い人から年配の方まで、たかとの郷を良くするために一生懸命だということが分かった。
- ・どの人もこの地区を大事にしているのがよくわかって頼もしく思えた。
- ・今までのワークショップで出てきた意見が具体的な形になった。
- ・たかとり山がいかに住民の心に大きくあるかがわかった気がした。
- ・皆が高椋東部地区の発展、向上を考えている事がよく分かった。
- ・「たかとの郷」の未来をみんなで考えたこと。

【自信がついたこと】

- ・どんな意見も聞いてもらえることで素直な意見が出せた。
- ・自分の思いを言葉にしていくこと。
- ・自分も行動したいで地域に貢献できそうだなと思った。
- ・自分が地域で力になりそうなのを考えることができた。
- ・一人でできないこともみんなでする、一つにすることに自信がついた。

【全体の感想】

- ・この会で出た意見が少しずつでも実現に向けて進んでいけたらよいなあと思う。
- ・すごく楽しいワークショップだった。現在、欠けている地域住民の集大成がこのワークショップによって、出来上がることを期待する。
- ・3回のワークショップを通して貴重な経験ができた。中学生・高校生・20代の若者を集めて、地域を考える会ができたらずばらしいと思うし、そんな会があったら40代・50代・60代の地域住民も私も参加できたらよいと思う。
- ・皆が協力し、短い時間であったが形にできた。協力し合う事での力を感じた。



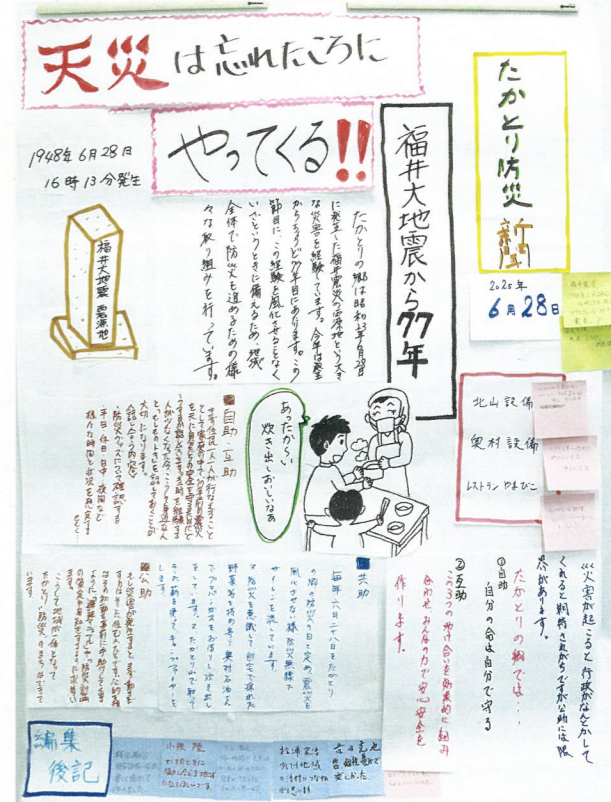
93意見の一部を抜粋

5W1Hで紐解く 防災グループ

- いつ (When)** 福井大震災から77年後の2025年6月28日
- どこで (Where)** 福井大震災の震源地末政地係
- だれが (Who)** たかとの郷の住民全員
- 何を (What)** 災害に対する意識づけをする
- なぜ (Why)** いざという時に取るべき行動をみんなで確認するため

どのように(How)

たかとの郷づくり協議会では77年前の震災の日に合わせて防災訓練を実施した。訓練は自助・互助を考える班、共助を考える班、公助を考える班に分かれて、それぞれの立場で取るべき行動を確認。自助・互助班では日頃より自分たちの安全を守るにはどうすべきか熱心に議論した。共助班では地元企業への支援要請について確認、炊き出しなどの手順が確立した。公助班では防災計画マニュアルについて話し合わせ、初動体制が明らかとなった。

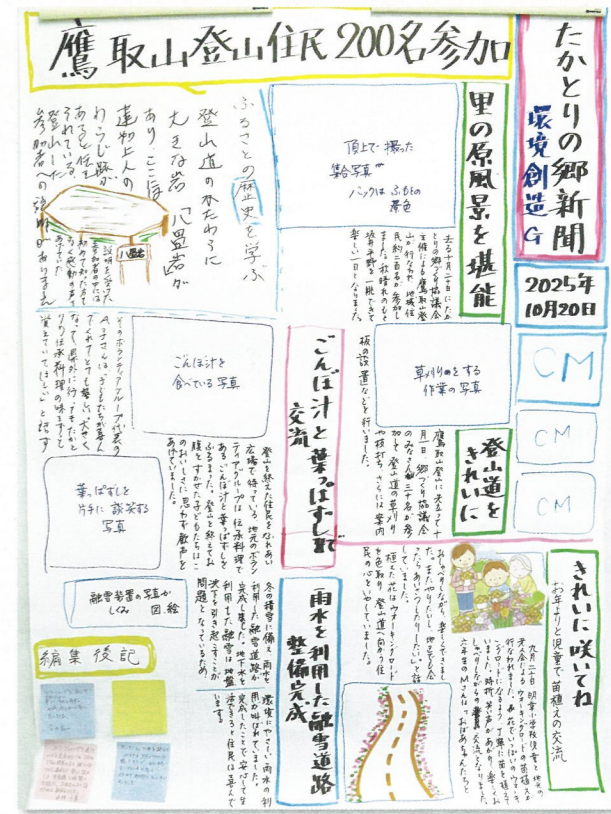


5W1Hで紐解く 環境創造グループ

- いつ (When)** 2025年10月20日
- どこで (Where)** 鷹取山
- だれが (Who)** 地域の子どもから高齢者住民約200名
- 何を (What)** 鷹取山登山をする
- なぜ (Why)** 里山の原風景を歩いて堪能するため

どのように(How)

秋晴れの下、恒例の鷹取山住民登山が10月20日に開催された。これに先立ち、参加者が快適で安全に登山できるよう、たかとの郷づくり協議会のメンバー30名が事前に草刈りや枝打ち、案内板の取り付け作業を行った。当日は道中の八畳岩の所以である「蓮如上人の草鞋跡が残る」とされる伝承を語り部から学び、山頂では坂井平野を一望できる場所で記念撮影をして楽しんだ。下山後はボランティアグループの協力によって伝承料理「ごんぼ汁」「葉っぱずし」を食して交流を深め、会場となった「ふれあい広場」ではあまりのおいしさに参加者みんなが歓声を上げていた。





やりたかったこと
やってみよう。

高棟東部コミセン&鳴鹿コミセン共催 令和3年度コミセン講座



講師の法話にじっくり耳を傾けます



心穏やかに写経に集中

**身・息・心を調える
『禅』体験**
丸岡地区内のコミセンが集まって開催する共催講座。今年度は『世界を旅するコミセン講座』をテーマに5つの講座を開催しました。高棟東部&鳴鹿コミセンでは、日本文化の素晴らしさを感じていただくこと、大本山永平寺より講師をお招きして坐禅と写経の体験を行いました。静かな空間で自分自身とじっくり向き合うひとときになったのではないのでしょうか。

11/5 (金)

クラフトテープで 季節のリースづくり

お馴染みのクラフトテープを使って、2種類のリースを作りました。慣れるまでは編み方に戸惑う方もいましたが、徐々に単純作業が楽しくなり、気づけばみなさん無言で手を動かされていました。高級感あふれる作品の出来映えに大満足でした。



クリスマス
12/1 (水)



ひと味違う手づくりのリースで
クリスマスを華やかに



編む強さやひねり方によって
表情が変わります！

12/2 (木)
お正月
パージョン



たのしみ・かんがえる・とりくむ #まち活

- MACHI KATSU -

高校総体サッカー会場 かんきょう プランター提供お礼

令和3年度高等学校総合体育大会福井県実行委員会サッカー競技委員会より、昨年8月開催のサッカー競技会場に花卉プランターを提供したことに對する感謝状をいただきました。



花の交流会 11/18(木) かんきょう

もみじ保育園の4・5歳児と一緒に花の交流会を実施しました。6月に続いて2度目ということもあり、子どもたちも手際よくスムーズに行う事ができました。



鷹取山登山 10/31(日) けんこう

新型コロナの影響で2年ぶりの開催となった鷹取山登山。当日は、天候に恵まれ、少数ながら和気あいあいと登山を楽しむことができました。来年はコロナが収束し、多くの参加を期待しています。



ふくし部会委員研修会 11/24(水) ふくし

福祉委員、民生児童委員で部会委員研修会を実施。グループに分かれ日々の見守り活動の課題を出し合いながら解決方法を探りました。

令和4年
高椋東部地区区長会

役員

会長：南出 繁和
副会長：藤田 禎一
理事：林田 勝幸
理事：小嶋由紀夫
監事：西 洋一
監事：油谷 眞俊

(敬称略)

各区長

新間：荒木 公次
儀間：小西 邦夫
牛ヶ島：林田 勝幸
高瀬：小嶋由紀夫
豊原高瀬：高塚 嘉治
筑後清水：山田富士雄
四ツ柳：清水 久人
北四ツ柳：長谷川弘二
高田：藤澤 昭勝
油為頭：藤田 禎一
板倉：南出 繁和
葉咲野：杉山 力夫
野中山王：南田 峰男
大森：西 洋一
山崎三ヶ：高山 泰二
末政：山岡 栄一
末政2：油谷 眞俊

(敬称略)



地区内外の旬な情報を
発信していきます

まめまき

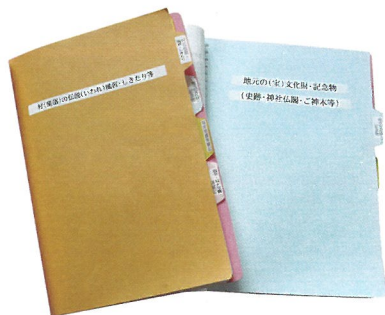
平安時代の大みそか(旧暦)におこなわれていた朝廷の年中行事が、江戸時代に流行した疫病(鬼・邪気)を追いつくために、町人の間に広がっていきま



保育園でも毎年豆まきをおこなっています。事前に鬼のお面を飾ったり、豆まきの予行練習をしたりと怖がらせない工夫をしますが、やっぱり動き回る鬼さんは怖くてあちこちから鳴き声があがります。おこりんぼ鬼・泣き虫鬼・いじわる鬼などこころの中の鬼を追いつく約束をして一日が終わります。昨年も今年も悪い鬼(コロナ禍)がはびこり、早く追いつく、元気に外でいっぱい遊びたいです。春には広場の改修工事が終わるので、地域の皆様と交流できることを楽しみに待っています。

絶賛好評貸出中

「たかとの郷今昔物語」



地域の宝探しで編纂した文化財・伝承伝説・戦争地震体験記等、盛りだくさんな内容です。貸出希望の方は高椋東部コミュニティセンターまで。

自動販売機設置！

高椋東部コミュニティセンター前に自動販売機が設置されました。みなさん、どうぞご利用ください!!



高椋東部の人口

2022.3.1 現在
()内は 2021.10.1 現在比

世帯数 703 戸 (-1 戸)
人口 2,159 人 (-21 人)
男 1,068 人 (-14 人)
女 1,091 人 (-7 人)

つぶやき

今の現状に…二年を過ぎ今もお収束の気配が無いコロナ感染。その中まぢ協も工夫をこらして事業活動をしてはきたが、改めて広報紙作りで振り返ってみると数年前とは全く違う様子が見えてくる。そして今の状況に慣れを感じてきている自分に対しても寂しい気持ちになってくる。そんな事を感じている私ですが…家に帰ると愛猫はコロナ禍とは無縁でいつも変わりなく愛想してくる。ホッと落ち着く癒しの時です。
猫好きなおじさん

一緒にまちづくり
やるっさ!!

興味のある方は、
お気軽に高椋東部
コミュニティセンター
まで。
(☎ 66-4422)



たかとの郷
NO.33
2022.3.23 発行

発行/たかとの郷づくり協議会・高椋東部コミュニティセンター
編集/たかとり広報委員会(坂井市丸岡町板倉45-47) Tel&fax 0776-66-4422
http://takatorinosato.net/